

記念式典

あかりの家開設 30 周年記念式典・祝賀会

2016年11月4日 高砂市 鹿島殿

祝賀会



当日、職員全員、利用者もスーツやワンピースに身を包み、会場に向かいました。ピシッとした服を着ると自然と気持ちも引き締まります。

慣れない場所に慣れない服、おまけに厳粛な空間。約1時間半の静かな式典で、園長はじめ、支援員、保護者もとてもうれしく思いました。

来賓の皆様にはお祝いの言葉をいただき、また、これまで、あかりの家の運営に尽力、協力して下さった方々への感謝状の贈呈も行われました。



祝賀会では、これまでのあかりの家の歴史を振り返るDVDを見ながら、ワイワイとおいしい食事を頂きました。利用者の方々もきっと若かったころの自分を思い出しておられたのではないのでしょうか…。あのころは、あだだったな、こうだったな、こんなこともあったな、と皆それぞれ昔話に花が咲きました。



ごこころ暖まる
ご祝辞をいただきました

永年に渡る支援に感謝して
感謝状を贈らせていただきました



あいあむ 川崎 圭子 相談員

兵庫県自閉症協会 岩本 四十二 会長

高砂を明るくする会 高橋 厚晴 氏

華道クラブ 松尾 豊華 講師

あかりの家利用者 正木 勝也 氏 30周年記念Tシャツイラスト提供

あかりの家 亀山 隆幸 支援部長

本当に沢山の方に支援していただいた30年だったのだと実感いたしました。深く感謝申し上げます。これからも40年、50年…とお祝いできるような、頑張りたいと思います。

ご来賓名簿(称略)

- 登 幸人 高砂市長
- 砂川 辰義 高砂市議会 議長
- 西本 好道 北脇自治会長
- 田井 真一 加古川市福祉部長
- 井澤 尚昭 稲美町健康福祉部長
- 福田 宜克 播磨町 理事
- 関 孝和 兵庫県健康福祉部障害福祉局長
- 岩本四十二 兵庫県自閉症協会 会長
- 松上 利男 全日本自閉症支援者協会 会長
- 五十嵐康郎 全日本自閉症支援者協会 副会長
- 石井 啓 全日本自閉症支援者協会 副会長

- 蓬萊 和裕 兵庫県知的障害者施設協会 会長
- 河村有紀彦 東はりま特別支援学校 教頭
- 垂井 健一 いなみ野特別支援学校 教頭
- 日岡 孝夫 あすなろ学園 施設長
- 高橋 厚晴 もちつきボランティア 高砂を明るくする会
- 松尾 豊華 華道クラブボランティア 講師
- 安部 武 アートクラブボランティア 講師
- 歌野美津恵 あかり喫茶ボランティア 秋桜会
- 柿木 國夫 社会福祉法人あかりの家 後援会長
- 本庄 裕子 社会福祉法人あかりの家 元後援会役員

来賓祝辞

- 登 幸人様 高砂市長
- 関 孝和様 兵庫県健康福祉部障害福祉局長
- 岩本四十二様 兵庫県自閉症協会 会長
- 松上 利男様 全日本自閉症支援者協会 会長

ゲストスピーチ(祝賀会)

- 歌野美津恵様 あかり喫茶ボランティア 秋桜会
- 本庄 裕子様 社会福祉法人あかりの家 元後援会役員
- 松尾 豊華様 華道クラブボランティア 講師

感謝状贈呈

- <長年の支援に感謝して一式典>
- 柿木 國夫様 社会福祉法人あかりの家 後援会長
- 本庄 裕子様 社会福祉法人あかりの家 元後援会役員
- 今津 房子様 社会福祉法人あかりの家 理事
- 高砂を明るくする会 もちつきボランティア
- 松尾 豊華様 華道クラブボランティア 講師
- 安部 武様 アートクラブボランティア 講師
- 秋 桜 会様 あかり喫茶ボランティア
- 永江きよみ様 音楽クラブボランティア 講師
- <Tシャツイラスト提供に感謝して一祝賀会>
- 正木 勝也様 障害者支援施設あかりの家 利用者

祝電

- 渡海 紀三朗様 元文部科学大臣 衆議院議員
- 山本 敏信様 兵庫県議会議員
- 日野 滋子様 神戸市自閉症協会 会長
- 光井 早苗様 高砂市手をつなぐ育成会 会長

お祝い
社会福祉法人あかりの家創立三十周年、おめでとうございます。これまで自閉症の人たちに寄添い支援にご尽力されてきたことに心より敬意を表しますとともに、これからも自閉症の人たちが豊かな生活を送れることを願って、あかりの家のますますの発展に期待しています。
神戸市自閉症協会 会長 日野 滋子

あかりの家開設 30 周年記念講演会

2016年12月17日 高砂市文化センター



基調講演： 僕が自閉語を学ぶわけ～エピソードで語る教師力の極意～

講師：ノートルダム清心女子大学 青山 新吾 先生



講師のノートルダム清心女子大学 青山新吾先生は、著書や論文であかりの家のキーワードをしばしば取上げていただいています。

学校や保育園の先生、施設関係者、保護者の皆さん約200人を前に、ご自身の障害児教育の経験を通じたお話を、やさしく丁寧に披露していただきました。

勤務されていた小学校の給食試食会に、支援の必要な幼稚園児（自閉症）が参加した際、体に触れて力を抜かせるなどした支援体験について語っていただきました。

さらに、「自閉症の人とコミュニケーションを取る努力は、彼らとしっかり向き合おうとする努力の過程。どうすればよいか思考停止せず考え続けることが重要」と話されました。

<アンケート感想より>

- 『人間関係を紡ぐ』などの言葉の選び方は、思考停止しないために重要なことと再認識しました。
- 『動きの質の調整』が勉強になりました。
- 表出している現象（表現）をそのまま受け取るのではなく、行動の裏にある本質（主訴・本音）は何だろうと考える子供との付き合い方を考えさせられた。

鼎談 ～ミニ事例発表～

基調講演のあと、青山新吾先生と三原施設長とあかりの家の支援員での、鼎談という形のミニ事例発表でした。

これまであかりの家で積み上げてきた、実践の中から得たエッセンス集である“あかりの家自閉症療育のキーワード集”から、自閉症支援のいくつかの大切な切り口をピックアップして発表し、先生からコメントをいただきました。発表したキーワードは、次ページに掲載しています。

<アンケート感想より>

- 利用者ひとり一人の思いを受け止めて寄り添った支援の大切さ、時間をかけて一緒に過ごして向き合っていく、人間として対等に向き合っている関係性が伝わってきました。
- 個々の職員の実践をお聞きして、細やかな目配りに感心しました。見過ごしてもいいような場面を見過ごさず、利用者さんと心で対話する力量を感じました。

